

仏像鑑賞パート2 名張・伊賀の鎌倉仏像を中心に(ちょっと奈良・京都・他)

はじめに 仏像の鎌倉時代に至るまで

仏像が日本列島に流入 6世紀から 金銅仏が流入

7世紀前半 渡来人技術者の活躍 止利仏師の活躍 飛鳥大仏・法隆寺釈迦三尊他

木像彫像の製作 法隆寺夢殿救世観音像(樟) 広隆寺弥勒菩薩半跏思惟像(赤松)

7世紀後半 名工漢山口直大口の法隆寺四天王像

百濟工人の活躍・天智・天武 飛鳥文化 藤原京時代 天武・持統・文武 白鳳文化
夏見麿寺の大形多尊埴仏(土)

8世紀 奈良時代 彫塑の技法 彫刻技法、彫塑技法

阿修羅など脱活乾漆像 薬師寺ブロンズ像 檀像 法隆寺『九面観音立像』 木材資源が豊富
乾漆技術の発展:美江寺観音 脱活乾漆像や木心乾漆像

8世紀後半 木彫の制作が進化 カヤ・ヒノキの針葉樹

念塑像と木彫像

平安時代 仏像の種類が増加 玄昉・空海などの僧侶 遣唐使による増加

木彫像が定着し、仏像の中心になる。乾漆像は遺品を残すのみ。表面仕上げとして残る。
樟⇒かや、ヒノキへ進化 その後ヒノキが一般的に

平安時代後期に寄木造、割矧造の日本独自の高度化

平安時代後期は和様化の時代 規範とされた唐の概念から、日本の概念が表面化
国風化、和様化が11世紀前半頃に達成された。初めて日本独自の表現を獲得した。

和様化の完成者は仏師定朝であった。平等院鳳凰堂の阿弥陀如来坐像に和様化の完成

技術的には寄木造。

定朝は、平安の公家好みを重視する。鎌倉彫刻に進化

鎌倉時代は何年から？

仏像はその時代の願主の要望で造られる

鎌倉時代の仏像の特徴

武士の気風を感じさせる力強く写実的な仏像
 運慶・快慶の慶派らが中心となる。
 東大寺南大門金剛力士像のような大規模像
 鎌倉地方でも多くの仏像が制作
 中国の宋時代の影響が強く現れる
 古主義的精神が現れ
 玉眼が挿入される。

運慶・快慶の総合芸術

「日本彫刻のルネサンス時代」

仏師系図について

玉眼の始まり 奈良・長岳寺

運慶 現存する最古 円成寺の大日如来

特徴

- 1.玉眼の技法
- 2.リアル
- 3.軽やかな質感の衣文
- 4.若々しい表情
- 7.ふっくらした肉体表現
- 6.自筆のサイン
- 7.清らかさの存在感
- 8.髪際

運慶は後ほど

快慶

名張川沿いに快慶の作品があった 西方寺

巧匠 阿弥陀仏 重源の弟子に頂いた快慶の名に阿弥陀仏を与える。

重源は、俊乗房重源・・・東大寺復興の大勸進 鎌倉幕府、源頼朝の全面協力(1181)

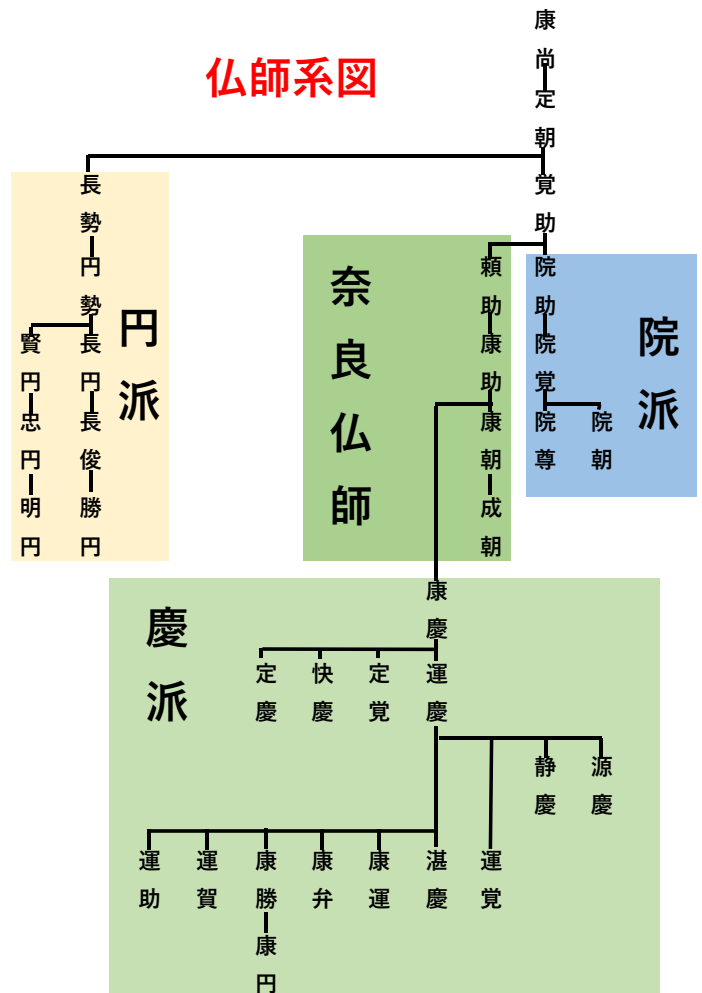
東大寺炎上 1180年、平重衡の軍勢により、大仏殿をはじめ伽藍の大半が焼失

重源の足跡 3段階

快慶 現存する最初の仏像 元興福寺 ポストン美術館所蔵 弥勒菩薩立像

日本では、醍醐寺 弥勒菩薩坐像

仏師系図



東大寺七別所は、重源が東大寺大仏再建のために各地に設けた拠点寺院

播磨別所 周防別所 伊賀別所 東大寺別所 高野新別所 渡辺別所 備中別所

伊賀別所 新大仏 快慶作は頭部のみ 台座 宋の石工 伊行末 作

重源と宋人陳和卿や宋人伊行末 と 榮西

宋の技術で建築 東大寺南大門が現存 大仏殿は江戸時代前に焼失

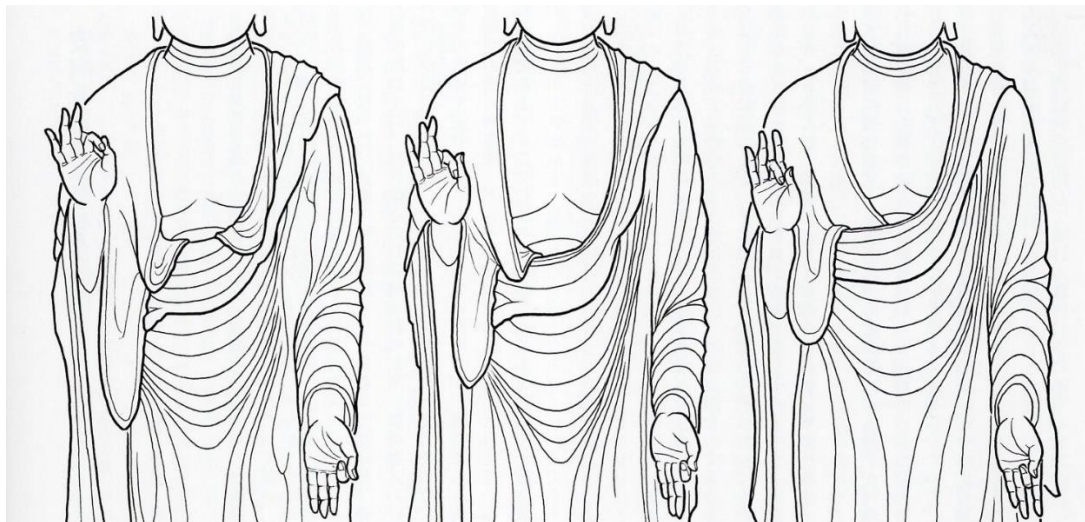
浄土寺 播磨別所 小野市 阿弥陀三尊立像

阿弥陀如来立像 安阿弥陀様と言われ三段階に形式が推移

第一形式 V字 U字 Y字 左右対称 袈裟 Y字の上に小山 袈裟 止め 宋風

第二形式 覆肩衣ふげんえ 右お腹に入れ込む前にたるみ 法橋位 1203 以降

第三形式 左襟を引き出し縁にかける



第三形式

第二形式

第一形式

5月 NHK スペシャル「運慶と快慶 新発見！幻の傑作」放映の 快慶作阿弥陀如来

高野山 光臺院 御室派 阿弥陀三尊像

快慶仏像の特徴

写実的、金泥・截金 表面仕上げ、

耳、髪際、内蔵品 多くの結縁者や五輪塔

東大寺 地藏菩薩立像 金泥 截金の華麗な文様

巧匠法橋快慶(1203~1210)

耳 特徴 対耳輪 上脚 (じょうきゃく) 下脚 (かきゃく)



金泥塗り 醍醐寺三宝院 弥勒如来坐像

金泥截金 西方寺の截金、金泥 現地で確認ください

西方寺のさらなる特徴 袖の薄さ 袈裟・宋風（衣は着る 袈裟はつける）手相

東大寺 俊重堂 金泥截金はみごと 足に注意(釘の穴)

西方寺 X線画像で内蔵品確認 おそらく結縁者署名

運慶の主な作品

- 1175年 20歳過ぎ 円成寺 大日如来坐像
- 1180年 東大寺、興福寺、平氏により焼き討ち
- 1181年 康慶、興福寺南円堂 造仏に着手
- 1183年 運慶願経
- 1185年 平家滅亡
- 1186年 静岡県伊豆韭山 願成就院 造仏 北条時政
- 1189年 横須賀市芦名 浄楽寺 造営仏 和田義盛
- 1195年 栃木県光得寺大日如来
- 1197年 高野山金剛峰寺八大童子
- 1201年 愛知県 滝山寺聖観音、梵天、帝釈天
- 1203年 東大寺南大門金剛力士像
- 1212年 興福寺北円堂 諸像

円成寺 大日如来坐像

願成就院 阿弥陀如来坐像 北条時政

浄楽寺 神奈川県 葉山の近く 侍別当和田義盛

六波羅蜜寺 地藏菩薩坐像

八大童子 行勝作ともいわれる不動堂の不動明王の眷属として運慶が造る。

三体の大日如来 円城寺 真如苑所蔵 光得寺

滝山寺(岡崎市) 帝釈天立像 観音菩薩立像 梵天立像

観音菩薩立像内に頼朝の歯と髪の毛が内蔵

興福寺 北円堂 本尊 弥勒如来座像 無着・世親像

無着はガンダーラ生まれ、弟子に世親 大乘仏教の空の思想を会得

8月25日の現地鑑賞会

おしまい